

パナソニック 草津拠点で「RE100 化ソリューション」実証施設の着工



9月28日、パナソニックのスマートエネルギーシステム事業部（SEBD）は、草津拠点内での実施を計画している、工場の電力を太陽光発電、蓄電池、純水素型燃料電池を組み合わせ、再生可能エネルギー（再エネ）100%で賄う「RE100化ソリューション」の実証施設の建設工事を開始しました。

当日は、地鎮祭が挙行され、アプライアンス社 公門副社長、RE100 ソリューションビジネスを担うSEBDの寺崎事業部長、工事を請け負う弊社社長の代、水素供給設備工事を請け負う岩谷産業の梅田京滋支店長ら関係者が参列し、全員で工事の安全を祈願しました。

RE100 化ソリューションは、脱炭素社会に向けた取り組みが加速する中、その解決策としてパナソニックが提案する、次世代のエネルギーとして関心が高まる水素を使って安定的に電力を供給することができるエネルギーソリューションです。工場の電力をすべて太陽光と水素で賄うため、将来的に再エネ由来の水素を利用すれば RE100（再エネ 100%での事業運営）の実現が可能となります。

今回着工した施設では、敷地面積が限られ、太陽光パネルの設置量に制限がある事業所でも、純水素型燃料電池を使えば RE100 が実現できることを実証します。

具体的には、草津拠点の燃料電池工場（C-17棟）をショーケースとして、そこで消費する電力をすべて太陽光と水素で賄う予定です。工場の屋上に太陽光パネルを敷き詰めて設置するケースを想定し、C-17棟の屋根面積と同じ敷地に太陽光パネル570kW を設置するとともに、5kW タイプの純水素型燃料電池100台、リチウムイオン電池1.1MWh を設置します。

今後、基礎工事を行った後、年末から年始にかけて純水素型燃料電池や太陽光パネルなどの設備を順次設置、2022年4月からの実証開始を予定しています。

弊社は草津拠点のCO2削減に貢献するとともに、今後はRE100を目指す事業者様に対してソリューションビジネスを展開します。



RE100 化ソリューション実証施設完成イメージ